

第27期第14回常任理事会議事録

日 時：1994年4月5日 14時00分～16時40分

場 所：気象庁内日本気象学会事務室

出席者：浅井，竹内，岩崎，大西，小倉，木田，関口，
中村，新田，藤谷，松野，村上 以上12名

議 事

1. 第27期第13回常任理事会議事録の確認

一部修正のうえ承認。

2. 各委員会からの報告及び審議

庶務…後援名義等使用許可1件（ヤマセシンポジウム：同シンポジウム組織委員会主催，岩手県久慈市）

- ・転載許可1件
- ・TRMM に関する受託研究の成果報告書の提出および成果報告会終了。研究費の会計処理は年度をまたがる。
- ・3月30日に学会パソコン通信のホスト局を学会事務室に移転。年間40万円程度の経費節約になる。
- ・会員名簿の作成について常任理事会として議論。1994年度については、昨年、定款の大幅な改正があったため、5月の総会終了後の早い時期に名簿を印刷する。今後、名簿の発行は3年に1度に改めることを総会に諮る。

会計…1994年2月の収支決算を報告。会費収入，基本財産運用は予算通り。TRMM の受託研究などがあり，総収入は予算より多くなる。IAMAP の決算が出され，気象学会からの支出は予算の600万円より少ない500万円程度で納まる。

天気…3月号の内容及び4，5月号の予定を報告。

- ・IAMAP 特集号は4月号と同時に発送予定。
- ・印刷業者の入札を行い，三報社が前年とほぼ同額で引き続き担当することになった。

気象集誌…印刷業者の入札を行い，6社が参加。新規の総合印刷が落札した。

研究ノート…印刷業者の入札を行い，7社が参加。UAP がほぼ前年度価格で今回も落札した。

教育と普及…1994年度夏季大学の準備は順調に進ん

でいる。

IAMAP…3月15日に学術会議の第3回組織委員会があり，すべての報告が了承された。現在，組織委員会の解散同意書の承認手続きを各学会の持ち回りで決裁中。3月31日に解散する。

国際学術交流…現在6名から補助申請が出ており，競争が厳しい。委員会の開催を調整中。福岡の秋季大会シンポジウムへの外国参加者への補助は3名。

- ・ケニヤ気象学会から「気象研究の応用と業務化に関するワークショップ」の共催要請があった件につき，常任理事会として討議。運営費用の補助を伴う共催には応じられないが，ケニヤの気象学の高いレベル等を考慮して，「天気」誌上でワークショップを紹介し，国際交流基金からの優先補助を保証したうえで参加者を募ることに決定。

パソコン通信…2月の着信件数250件。

- ・データベース検索機能のバージョンアップに取り組む。

3. 会員の新規加入等について

個人12名，団体3の入会を承認。個人11名の退会を報告。

4. 第28期役員候補者の選任について

3月15日に選挙で当選した理事候補者の会合をもち，総会に提案する推薦による役員候補者の人選を討議したことを庶務担当理事から報告。会合の概要は以下の通り。

「討議の結果，磯部英彦（気象庁長期予報課），斎藤三行（気象庁統計室），永田雅（気象庁数値予報課），中村一（気象大学校）の4会員を理事候補として推薦することを決定。これに関連して，役員推薦制度の活用方策や，今回改正された役員選任の方法に関する問題点に至るまで幅広く議論された。ここで出された意見は，次期理事会にも引き継ぎ，継続して議論していくことにする。」

当選した理事候補者の若干名から，4月の異動を理由に理事候補を辞退する届けが選挙管理委員会に出された。これを補充する推薦を行う必要があり，4月18日を第1候補に理事候補者の第2回会合をもつよう庶務担当理事が調整することとする。

5. 風工学シンポジウムの運営等について

標記シンポジウムの運営について、藤谷理事を通じて風工学会から「幹事学協会が毎回交代するため、長期的な戦略を立てにくい」等の問題点の指摘があり、これを解決するために「シンポジウムの主催を学術会議風工学専門委員会とし、共催は従来通り各学協会とするが、風工学会が副幹事を常任し、風工学会を除く各学協会が交代で幹事を担当する」、「シンポジウム論文集の編集・刊行・販売・保管は風工

学会が担当し、風工学会誌の特集号として発行する」との提案があった。これについて常任理事会として議論した結果、この提案に賛同する旨、回答することに決定。

6. 1994年度事業計画案および予算案

予算案では、郵便料金値上げの影響が心配されたが、気象集誌の印刷経費が低い価格で落札されたため、値上げ分を吸収できる見込み。



シンポジウム「日本の杉枯れの実態とその原因……これまでの調査研究でどこまでわかったか」開催のご案内

杉枯れと酸性雨との関係が報告されてから、約10年近くが過ぎようとしています。その後、これに関して多くの調査研究がされてきましたので、杉枯れの原因について、現在までにわかったこと、また今後なにを研究すべきかについて、第一線で研究されてきた3名の講師の方々にお話しいただきます。その後に、さらに詳しくその原因を議論するために、パネル討論を行います。ご関心をお持ちの方は、ぜひご参加下さるようご案内申し上げます。

日時：1994年6月13日（月）13時～17時

会場：日本化学会 化学会館ホール
（千代田区神田駿河台1-5）

JR お茶の水西口下車徒歩5分

電話 (03) 3292-6163

主催：日本化学会酸性雨問題研究会

共催：大気汚染研究協会酸性雨分科会

第2回シンポジウム名：

「日本の杉枯れの実態とその原因……これまでの調査研究でどこまでわかったか……」

第1部：話題提供

座長（農業環境技術研究所）鶴田治雄

1. 日本の杉枯れ現象の実態

（千葉大学名誉教授）高橋啓二

2. 杉の衰退と大気二次汚染物質との関係

（財）電力中央研究所 梨本 真

3. 生理学的にみた杉の衰退の原因に関する考察

（森林総合研究所）森川 靖

第2部パネル討論（話題提供者を中心として）

座長（東京農工大学教授）戸塚 績

……杉枯れの原因はなにか……

参加費：無料、ただし資料代として500円を申し受けます。

参加申込み方法：郵便または FAX で下記宛にお願い致します。

参加申込締切：6月7日（火）

申込・問い合わせ先：

〒223 横浜市港北区日吉3-14-1

慶応義塾大学理工学部応用化学科 田中 茂

（電話 (045) 563-1141内線3458,

FAX (045) 562-7625)